

News Release

「農作業安全研修実施強化期間」に合わせ、JA共済が「効率重視の現代を生きる若者の農業に対する意識」を調査
20代の5割以上が「タイパ疲れ」を実感、あえて手間をかけることや自給自足の生活に憧れ
タイパ疲れの20代6割、20代全体でも5割以上が「**将来農業をやってみたい**」
農業志向の20代5割以上が、今後の就農に備えて準備を始めており、
「農作業でのケガや事故を防ぐためのプログラムを体験したい」と約8割が回答

JA共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長 村山 美彦）は、「農作業安全研修実施強化期間」（12/1～2/28）に合わせ、全国の20代男女を対象に農業に対する意識と実態について調査を行いました。JA共済連では農業の新たな担い手に向けた支援をはじめ、さまざまな農業振興活動に取り組んでいることから、次の社会を担う20代にフォーカスし、“効率重視の現代を生きる若者と農業に対する意識”を探りました。その結果、20代の半数が効率を重視し過ぎて疲弊してしまう「タイパ*疲れ」を感じている一方で、手間をかけることや自給自足の生活に憧れていることが分かりました。さらに、タイパ疲れを感じている20代の6割が「将来農業をやってみたい」と農業への関心が高いことも分かりました。

主な調査結果は以下の通りです。

*タイパ：「タイムパフォーマンス」の略。短時間で最大の利益（効果）を得ることに着目した概念

タイパ重視の時代、20代の半数以上がタイパ疲れを実感し、そのうちの6割は農業に高い関心

20代男女10,000人の75.6%が「効率性は重要」、74.3%が「タイパは重要」と回答。一方で**56.1%が「タイパ疲れ」を実感**。

タイパ疲れを感じる20代は、あえて手間をかけたり自給自足をしたり、自然の中で働くことや地方移住への関心が高い。

将来、農業をやってみたい20代は52.1%。タイパ疲れを感じる20代では60.2%と、農業への関心が一層高い。

農業をやってみたい20代にとって、農業は自然や自分に向き合え、全てのプロセスに関与できる仕事

農業志向の20代（700人）にとって、農業は「自然と向き合える」、「自分と向き合える」、「成果や過程が目に見える」魅力的な働き方。

農業をやってみたい大学生（200人）のうち約7割（67.5%）が将来就きたい職業を見据えてキャリアを選択。卒業後、社会人としての経験を積み、農業以外の職業につき、安定した収入を得たうえで、就農を考えている。

20代の理想の就農スタイルは、人や社会とつながる持続可能な半農半X型

就農したい適齢期は「40代まで」が41.5%、リタイア後ではなく現役のうちに就農を希望。やってみたい農業スタイルは、農業と自分のやりたいことを両立する半農半X的な働き方で、家族や仲間、地域社会と連携した持続可能な社会性のある複業型農業。

将来の就農に向け半数以上が準備を始め、8割が農作業中の事故を防ぐプログラム体験を希望

農業志向の20代の56.0%が農業を始めるために何らかの「準備をしている」。「農家経営」「栽培方法」「起業のための補助制度」について学びたいと考え、約8割（78.9%）が「農作業でのケガや事故を防ぐためのプログラムを体験したい」と回答。

「20代の農業に関する意識と実態調査」調査概要

●実施時期：2024年11月1日（金）～11月4日（月） ●調査方法：インターネット調査 ●調査対象：調査①全国の20代男女10,000人 調査②将来農業をやってみたい20代男女700人 ●調査委託先：電通マクロミルインサイト ※本調査に記載の数値は小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や表記した数字の合算した値と異なる場合があります。

農業キャリアコンサルタント・深瀬貢範さんからのアドバイス

自分らしく働きたいと思う若い世代にとって農業が魅力的な選択肢として注目されています。農業は作物を栽培し消費者に提供する仕事で、自分の介在価値を感じやすく、「おいしかったです」と言ってもらえる事で若い世代の求める承認欲求も満たされます。最近では農業法人に就職という農業の始め方も増えてきました。

「20代の農業に関する意識と実態調査」サマリー

JA共済連では新たな農業の担い手に向けた支援をはじめ、さまざまな農業振興活動に取り組んでいることから、次世代を担う20代男女10,000人を対象に調査を行いました。現代社会は「タイパ」が重視されており、20代の74.3%が「タイパは重要」と思っています。一方で56.1%が「タイパ疲れ」を感じています。タイパ疲れを自覚する20代は、あえて手間をかけることや、自給自足の生活に憧れ、地方移住して自然の中で働きたいという意識が高く、「将来農業をやりたい」と答えた人も60.2%となっています。

また、将来農業をやりたい20代男女700人に農業の魅力を聞くと、「自然と向き合える」「自分と向き合える」「成果や過程が目に見える」が上位に挙げられました。また、将来農業をやりたい大学生の67.5%が「将来就きたい職業を見据えて、ファーストキャリア・セカンドキャリアを選んでいる」と答え、彼らの93.5%がまずは社会人としての経験を積み、安定した収入を得た上で、ネクスト・キャリアとしての就農を考えています。就農したい年齢は「40代までに」が多く、現役世代で農業人生をスタートさせ、自分のやりたいことと両立する半農半Xで持続可能な社会性のある農業を目指しています。将来の農業に備えて準備を始めている人は56.0%と半数を超え、今後、「農家経営」「栽培方法」「起業のための補助制度」について学びたいと意欲的です。また、78.9%と約8割が農作業でのケガや事故を防ぐプログラムを体験したいと答えています。

農業キャリアコンサルタント深瀬貴範さん、「就農を考える若い皆さんへ」

■ 農業に本気で向き合う20代 農業は自分の介在価値を確認できる仕事

私は農業キャリアコンサルタントとして農業人材の確保にも携わっていますが、最近では仕事として農業に向き合う若者が増えています。農業求人サイトの新卒向けのイベントでも参加する学生が増え、就農や農業への向き合い方の本気度を感じます。

若い世代に農業が人気の理由の一つが、農業が自分の介在価値を確認できる仕事だからです。自分が関わった仕事を褒められるとすごくうれしいと思うのですが、農業は作った野菜を「美味しい」と言ってもらえるなど、介在価値をじかに感じられます。そういった意味で、いわゆる“タイパ疲れ”を感じている若い世代の選択肢の一つとして、あえて手間をかけたり自然の中で働き、介在価値を確認できる農業に注目が集まっているのかもしれませんが、また、以前は農業がどんな仕事かよく分からない人もいたと思うのですが、今はネットでいろいろ調べられるので、自分の仕事の候補として考えられるようになってきました。若い人たちに仕事としての農業の情報が入りやすくなり、農業が身近になってきたことも就農人気の要因だと思います。

■ ネクスト・キャリアとしての農業 始めやすく続けやすい選択を

働き方改革やコロナ禍で、私たちの仕事に対する価値観は大きく変わりました。仕事をする中で、自然の中で過ごしたい、自分のペースで働きたいという自己実現を目指し、ネクスト・キャリアとして就農するケースも増えています。また、副業・兼業、転職が当たり前になり、キャリアチェンジしやすい社会の環境もネクスト・キャリアとしての農業選択の後押しになっているのかもしれませんが、今は、初心者でも農業を始めやすい制度や環境があります。ネクスト・キャリアとして農業に携わるのであれば、まずは農業法人で知識や技術を吸収し、その後独立するのもオススメです。いきなり新規就農するより、始めやすいし、続けやすいのではないのでしょうか。

■ 農作業事故につながる「無意識」「無理」「無茶」の3M 効果が高いVR体験で事前のリスク回避を

とはいえ、農業は自然を相手にしており、決して容易な仕事ではありません。お金と経営計画はしっかり準備しておきましょう。また、農作業事故に備えて、「農作業事故体験VR」を経験しておくのもオススメです。農作業事故を疑似体験できるのでテキストでの知識よりぐっとリアルで、その危険性を認識することができます。農作業事故の原因は「無意識」「無理」「無茶」の3Mです。天気を気にしない無意識、ここまでやっておこうという無理をする、危険なのに面倒だからと無茶してしまう、誰にでもありがちな3Mが大きな事故を引き起こします。「農作業事故体験VR」で危険性を強く意識することも、就農への第一歩です。

■ 効率やタイパを重視する20代、しかし半数以上が「タイパ疲れ」を実感

効率化やタイパ*などが重視される現代社会。そんな環境の下、20代の若い世代はどう感じているのか？全国の20代男女10,000人を対象に、日常生活の価値観に関する調査を行いました。

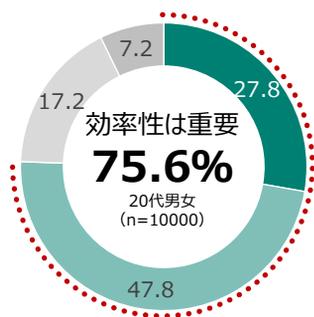
まず、何事にも効率性は重要だと思うかと聞くと、27.8%が「そう思う」、47.8%が「ややそう思う」と答え、合計で75.6%は効率性が重要だと思うと答えています。また、最近耳にするタイパについてもほぼ同じレベルの74.3%（「そう思う」27.2% + 「ややそう思う」47.1%）が重要だと思っています。一方で、タイパ疲れを感じるかと聞くと、半数を超える56.1%（「そう思う」19.0% + 「ややそう思う」37.1%）がタイパ疲れを感じると答えています〔図1〕。タイパは重要と認識しつつも、タイパ疲れも感じているようです。

*タイパ：「タイムパフォーマンス」の略。短時間で最大の利益（効果）を得ることに着目した概念

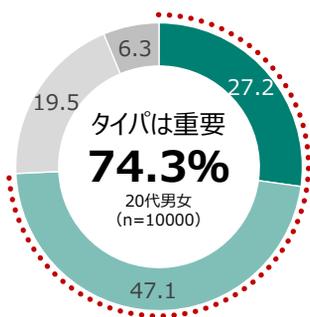
【図1】 効率やタイパに対する20代の意識

Q.生活価値観について、あてはまるものをひとつ選んでください。

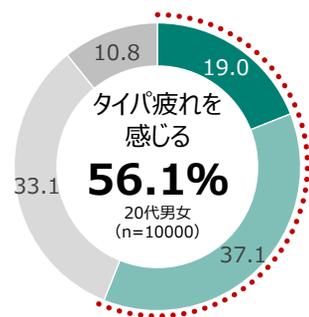
①何事にも効率性は重要だと思う



②タイパは重要だと思う



③タイパ疲れを感じる



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

■ タイパ疲れを感じる20代、「手間」「自給自足」「自然」「地方移住」への意向が強い

次に生活価値観について聞き、20代全体とタイパ疲れを感じる20代（図1③の該当者5,608人）を比較してみました。

生活の中であえて手間をかけてやっていることがある（そう思う計）は、全体46.6%に対し、タイパ疲れの20代は54.6%と手間をかけることをしている人の割合が高くなっています。自給自足をやってみたいのは、全体41.9%に対し、タイパ疲れの20代は49.7%と自給自足への意向割合も高くなっています。また、自然の中で働きたい（全体40.9%：タイパ疲れの20代48.9%）や、地方移住しても構わない（全体47.6%：タイパ疲れの20代53.3%）もタイパ疲れの20代の方が高くなっています〔図2〕。タイパ疲れを感じる20代は、あえて手間をかけて自分の手で生活し、自然の中で暮らしたいという意向が強くなっています。

【図2】 タイパと逆行する生活価値観に対する意識 20代全体：タイパ疲れの20代比較

Q.生活価値観について、あてはまるものをひとつ選んでください。



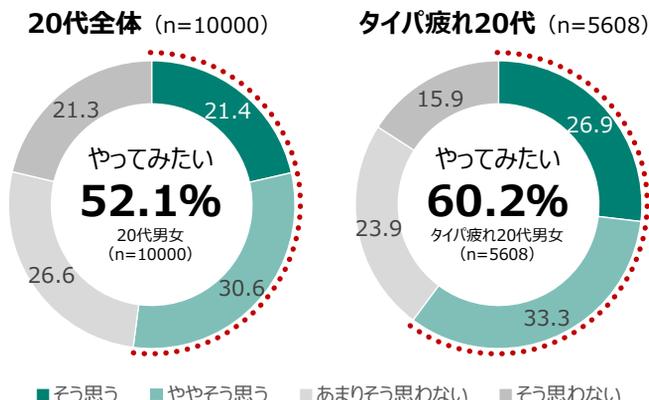
■ 20代の半数が「将来、農業をやってみたい」

20代男女10,000人に、将来、農業をやってみたいか聞きました。すると、21.4%が「そう思う」、30.6%が「ややそう思う」と答え、合計で52.1%*と20代の約半数が、「将来農業をやってみたい」と答えています。タイパ疲れを感じる20代では60.2%と、将来農業をやってみたいと答えた人が多くなっています【図3】。

*「専業で」、「副業・兼業で」、「形態は決めていないが、将来農業をやってみたい」のいずれかを回答した人の数値

【図3】 農業への関心度、将来の就農意欲

Q.将来、農業をやってみたいですか？



調査結果②

将来農業をやってみたい20代男女700人の農業に対する意識や実態

ここからは、「将来農業をやってみたい」と回答した20代男女700人（大学生200人、ビジネスパーソン*500人）に、農業に対する意識や実態について詳しく聞きました。

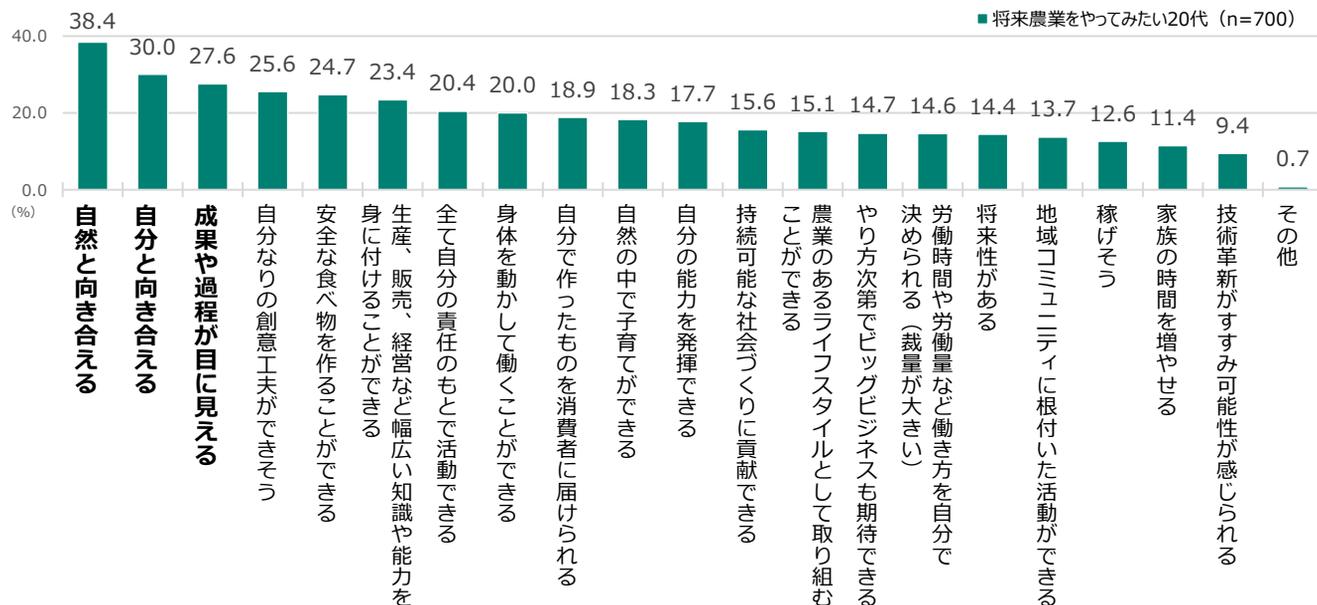
*ビジネスパーソン：公務員・会社員・会社役員など組織で働く人

■ 農業は自然や自分に向き合える、全てのプロセスに関与できる仕事

将来農業をやってみたい20代に農業の魅力を聞きました。すると、「自然と向き合える」（38.4%）、「自分と向き合える」（30.0%）、「成果や過程が目に見える」（27.6%）が上位に挙げられました【図4】。農業をやってみたい20代は、農業が、自然と向き合い、自分自身とも向き合うことができる、結果だけでなくプロセスに深く関わり、自分の手で創意工夫していく仕事であることに魅力を感じているようです。

【図4】 農業をやってみたい20代が考える農業の魅力

Q.農業の魅力は？（複数回答）



■ 農業に従事する際に必要な力は、「体力」「忍耐力」「計画力」「判断力」「観察力」

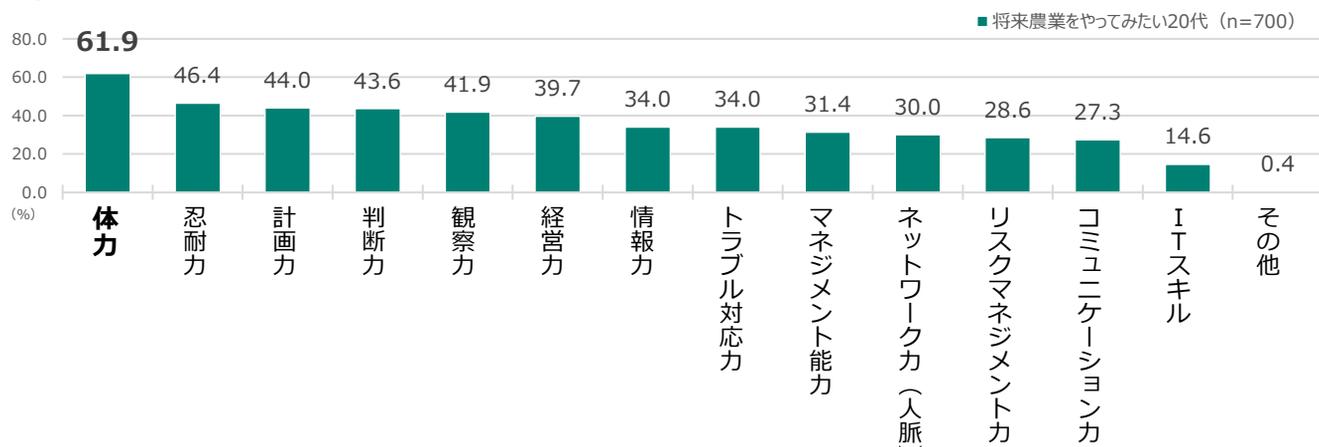
■ 現在足りていない力は、「体力」「経営力」「判断力」「計画力」「トラブル対応力」

農業をやりたい20代に、農業に従事する際に必要だと思う力を聞きました。すると、「体力」(61.9%)が最も高く、次いで「忍耐力」(46.4%)、「計画力」(44.0%)、「判断力」(43.6%)、「観察力」(41.9%)が上位に挙げられました。さらに、「情報力」「トラブル対応力」(同率34.0%)、「マネジメント能力」(31.4%)や「リスクマネジメント力」(28.6%)など、現代社会に不可欠なビジネススキルも就農には欠かせない力と考えられています【図5-1】。

また、その中で現在の自分に足りていない力を聞くと、「体力」(33.4%)がトップで、次いで「経営力」(29.6%)、「判断力」(24.1%)、「計画力」(23.7%)、「トラブル対応力」(21.9%)、「忍耐力」(21.7%)が上位となっています【図5-2】。就農するには、まずは「体力」が肝心ですが、自然と向き合うための「忍耐力」や経営者としての「経営力」や「マネジメント能力」も重要と考えられているようです。

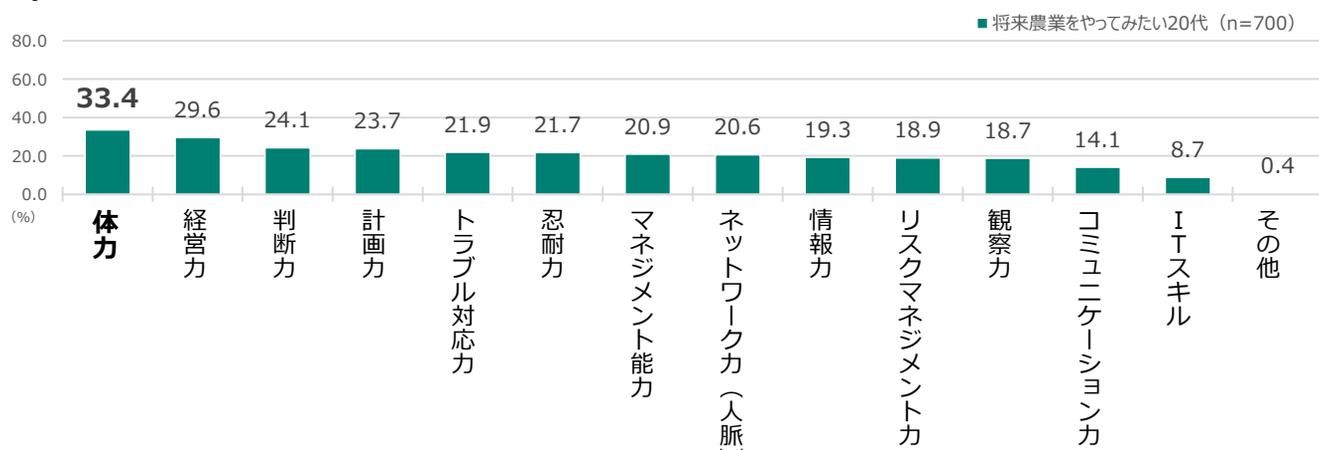
【図5-1】 就農するのに必要なチカラ

Q.農業に従事する際に必要だと思う力は？(複数回答)



【図5-2】 就農するのに現在足りないチカラ

Q.農業に従事する際、現在足りていない力は？(複数回答)



■ 就農を考える大学生の農業への道のり

農業をやってみたい20代のうち、大学生200人に就農への道のりについて聞きました。

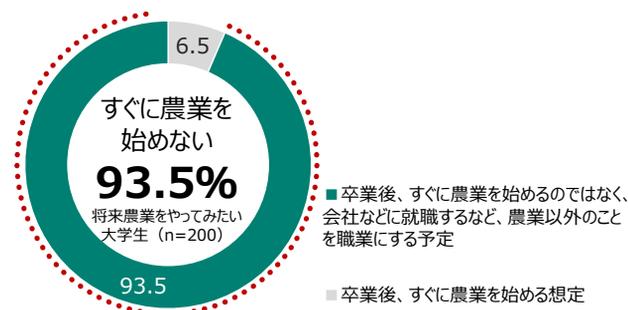
まず、卒業後の進路を聞くと、「卒業後、すぐに農業を始める想定」と答えたのは6.5%で、ほとんどの大学生が「卒業後、すぐに農業を始めるのではなく、会社などに就職するなど、農業以外のことを職業にする予定」（93.5%）と答えています

〔図6〕。将来農業をやってみたい意向があるものの、卒業後すぐに農業を始める“直農”志向の人は少ないようです。

とはいえ、彼らの7割近くが「将来就きたい職業を見据えて、ファーストキャリア・セカンドキャリアを選んでいる」（67.5%）と答えているため、就農を見据えたキャリア選択をする人が多いと考えられます〔図7〕。

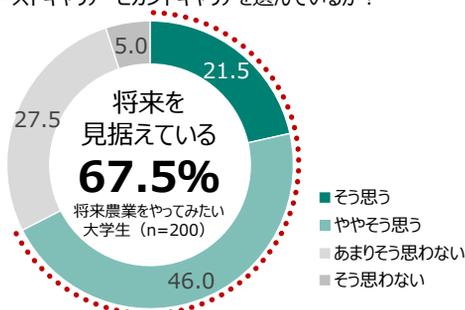
〔図6〕 卒業後の進路

Q.卒業後の進路は？



〔図7〕 将来のキャリア設計

Q.将来就きたい職業を見据えて、ファーストキャリア・セカンドキャリアを選んでいるか？

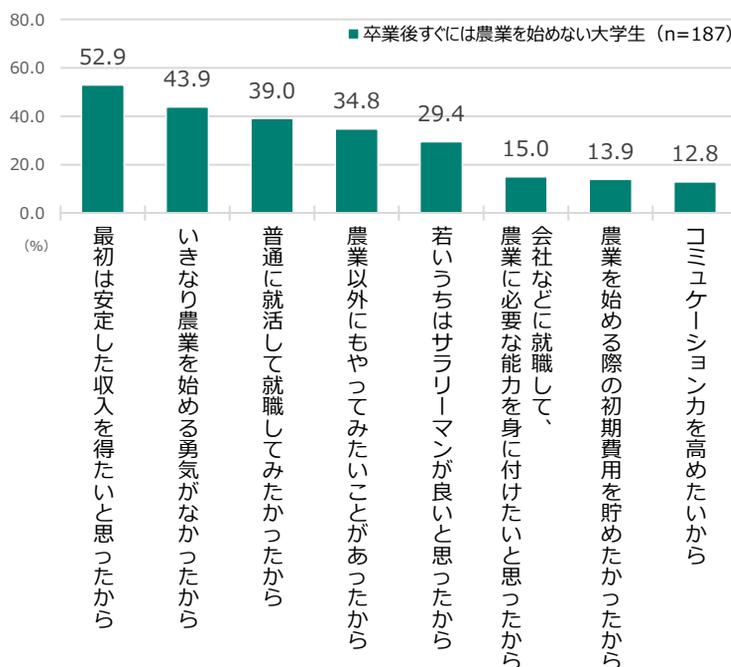


そこで、「すぐに農業を始めない」と答えた187人に理由を聞くと、「最初は安定した収入を得たいと思ったから」（52.9%）が多く、「いきなり農業を始める勇気がなかったから」（43.9%）、「普通に就活して就職してみたかったから」（39.0%）、「農業以外にもやってみみたいことがあったから」（34.8%）などがその理由として挙げられました〔図8〕。

将来農業をしたいと考えている大学生は、まずは社会人としての経験を積み、その上で、ネクスト・キャリアとして就農を考えるケースが多いようです。

〔図8〕 最初の就職先として農業を選択しない理由

Q.初めのキャリアとして「農業」を選択しない理由は？（複数回答）



※回答スコアが10%以上のものを表示

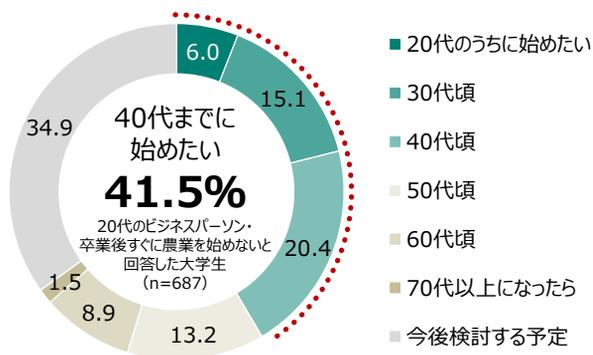
■ リタイア後ではなく、「40代までに」農業を始めたい人が4割

農業をやってみたい20代のうち、卒業後「すぐに農業を始めない」と回答した大学生187人と、農業以外の職業で働くビジネスパーソン500人の計687人に、何歳ぐらいで農業を始めたいか聞いてみました。すると、「40代頃」と答えた人が20.4%と多く、40代までに始めたい人が合計で41.5%と約4割を占めています【図9】。

社会人生活をリタイアしてからではなく、比較的若いうちから農業を始めたいと考える人が多いようです。

【図9】 農業を始めたい年代

Q.今後、いつ頃農業を始めたいか？



■ 将来やってみたい農業は、人や社会とつながる持続可能な半農半X型

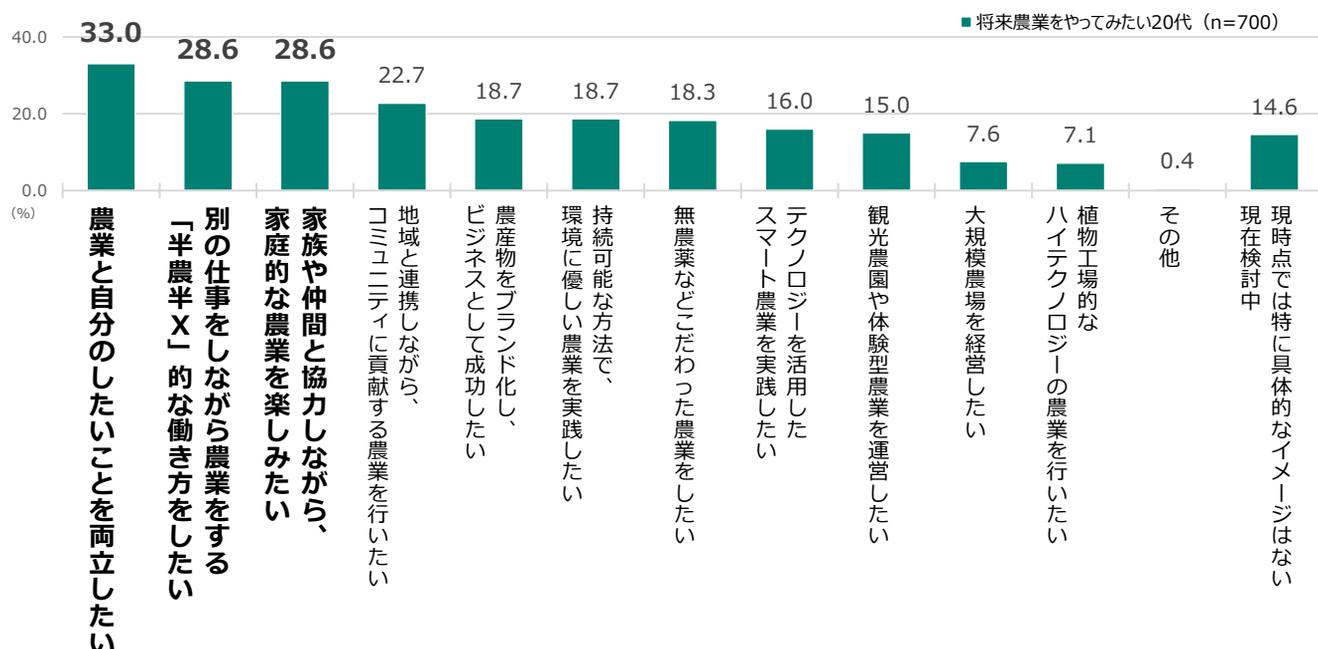
農業をやってみたい20代全員に、将来目指したい農業ライフについて聞いてみました。すると、「農業と自分のしたいことを両立したい」(33.0%)、「別の仕事をしながら農業をする半農半X*的な働き方をしたい」「家族や仲間と協力しながら、家庭的な農業を楽しみたい」(ともに28.6%)、「地域と連携しながら、コミュニティに貢献する農業を行いたい」(22.7%)といった意見が多く挙げられました【図10】。

効率や生産性よりも、社会や人とのつながりを重視する持続可能なスタイルで、専業農家ではなく自分がしたいことと「複業」する農業が理想と考える20代が多いようです。

*半農半X：農業と、他の仕事や自分の好きなこと（「x」）を両立させた働き方・ライフスタイルのこと

【図10】 目指したい農業スタイル

Q.将来目指したい農業や農業ライフとは？（複数回答）

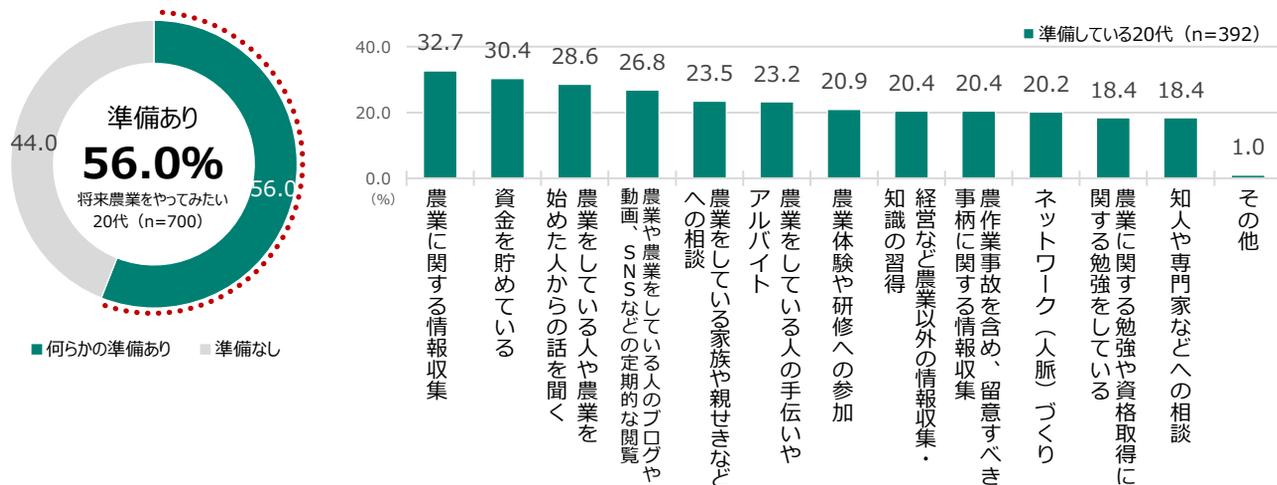


■ 将来農業を始めるために、農業志向の20代の5割以上が準備を始めている

将来、農業を始めることに備え準備として行っていることがあるかを聞くと、全体の約半数（56.0%）が何らかの準備を始めています。具体的には「農業に関する情報収集」（32.7%）や「資金を貯めている」（30.4%）、「農業をしている人や農業を始めた人からの話を聞く」（28.6%）、「農業や農業をしている人のブログや動画、SNSなどの定期的な閲覧」（26.8%）などが挙げられました〔図11〕。まずは身近で取り組みやすいことから始めているようです。

〔図11〕 農業を始めるために準備していること

Q.今後、農業を始めることを考慮して、準備として行っていることは？（複数回答）



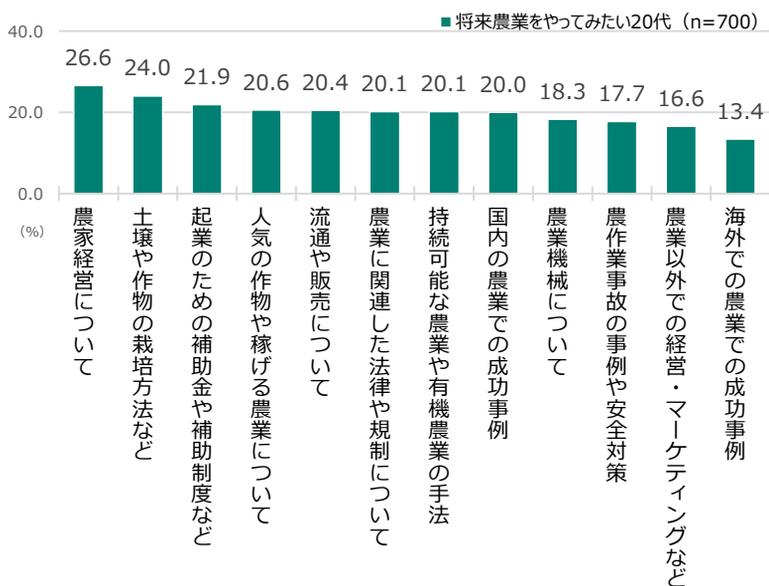
■ 農業をやってみたい20代の8割が農作業事故防止プログラムを「体験したい」

また、今後農業について学びたいことを聞くと、「農家経営について」（26.6%）、「土壌や作物の栽培方法など」（24.0%）、「起業のための補助金や補助制度など」（21.9%）が上位に挙げられました〔図12〕。

「農作業事故の事例や安全対策」について学びたいと答えた人は、17.7%とおおよそ6人に1人ですが、農作業でのケガや事故を防ぐプログラムを体験したいかと具体的に聞くと、78.9%（「そう思う」25.0%+「ややそう思う」53.9%）と約8割が農作業事故防止プログラムを「体験したい」と答えています〔図13〕。

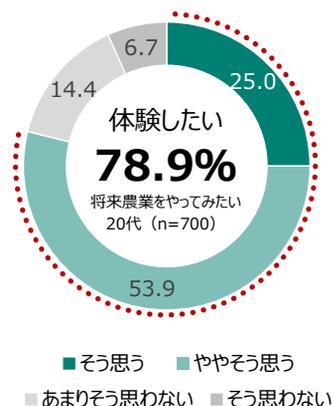
〔図12〕 農業について今後学びたいこと

Q.農業を開始することを考え、今後、学びたいことは？（複数回答）



〔図13〕 農作業事故防止プログラムの体験意向

Q.農作業でのケガや事故を防ぐプログラムを体験したいか？



■ 農業に本気で向き合う20代、農業は自分の介在価値を確認できる仕事

私は農業キャリアコンサルタントとして農業人材の確保にも携わっていますが、最近では以前に増して仕事として農業に向き合う若者が増えているように思います。農業求人サイトが行う新卒向けのイベントでも参加する学生が増え、仕事として本気で農業と向き合う若者が増えていると感じます。有機栽培や露地野菜の栽培についてセミナーを開くと、若い人の参加が多くすぐに満席になるほどです。若い世代に農業が注目される理由の一つが、農業が自分の介在価値を確認できる仕事ということがあると思います。どんな仕事も自分が関わった仕事を褒められるとすごくうれしいと思うのですが、農業は作った野菜を「おいしい」と言ってもらえるなど、自分の介在価値をじかに感じられる仕事です。そういった意味で効率重視といわれる、いわゆる“タイパ疲れ”を感じている若い人が選択肢の一つとして、あえて手間をかけ自然の中で働き、介在価値を確認できる農業に注目が集まっているのかもしれませんが。また、以前は農業の仕事内容が理解されていないこともあったと思いますが、今はネットで情報を検索できたり、イベントで話を聞くことで、自分の仕事の候補として考えられるようになってきました。若い人たちが自分らしく働く仕事の選択肢として農業が加わり、身近になってきたことも人気の要因だと思います。

■ ネクスト・キャリアとしての農業 大切なのは始めやすく続けやすい選択です

働き方改革やコロナ禍で、私たちの仕事に対する考え方や価値観が大きく変わりました。仕事をする中で、自然の中で過ごしたい、自分のペースで働きたい、家族と長い時間一緒に過ごしたいという自己実現を目指し、ネクスト・キャリアとして農業を選択するケースも増えています。また、副業・兼業、転職が当たり前になり、キャリアチェンジしやすい社会の環境もネクスト・キャリアとしての農業選択の後押しになっているのかもしれませんが。今は、初心者でも農業を始めやすい制度や環境があります。ネクスト・キャリアとして農業に携わるのであれば、まずは農家さんでの研修や農業法人で知識や技術を吸収し、その後独立するのもオススメです。いきなり独立して農業を始めるより、始めやすく、続けやすいのではないのでしょうか。

■ これから農業を始める20代へのアドバイス 資金と経営計画

とはいえ、農業は自然を相手にすることから、思い通りに栽培できないこともあります。決して簡単な仕事ではありません。農業を始めたからといってすぐに収入があるわけではないので、農業を始める準備資金に加え、1年分の生活費の蓄えはマスト。さらに1年頑張ったのに作物ができなかったということもあるので、それなりの資金は必要です。また、1年目はどういう農業をするのか、2年目は何を指すか、3年目は何を実現するか、そのために何が必要かといった、いわゆる経営計画を持つことも必要です。そういう意味では、起業して事業を運営するのと同じように、経営者としての感覚が求められます。

■ 農業をする上で安全管理も重要 農作業事故につながる「無意識」「無理」「無茶」の3Mを視覚効果が高いVR体験で学び、事前のリスク回避を

農業をやっていく上でのリスクの一つが農作業事故です。私も農業をやっていますが、自身の経験から農作業事故の原因は、「無意識」「無理」「無茶」の3Mだと考えています。前日の雨で路面の状態が変わっていることを気にせず、いつもの道だからと危険を意識しない「無意識」、日が暮れているのに今日中に終わらせたいと作業を続ける「無理」、慣れからゴーグルやヘルメットをしないで刈払機（草刈り機）を動かす「無茶」。ついやりがちなのですが、実はとても危険です。農業に携わる人は誰もがこの3Mを意識することが大事だと思います。

生産者はおいしい作物を作ることには関心が高くても、農作業事故対策は二の次になりやすい。しかし起きてからでは後の祭りです。JA共済が活動を広めている「農作業事故体験VR」は、農作業事故を疑似体験できるので、テキストや写真に比べぐっとリアルで実感度が高いと思います。農家さんにも、これから就農を考える方にも、ぜひ一度体験していただきたいですね。



深瀬貴範（ふかせ・たかのり）さん 農業キャリアコンサルタント AKUSYU（アクシュ）代表

1985年株式会社リクルートフロムエー（現・リクルート）に入社。人事マネージャーとして自社の新卒・中途採用を担当、また営業として東日本営業部の部長などを経験。2011年より農林水産省に農業人材の確保について提案。その後、地方創生や地方の農業人材確保に取り組み、2013年から農林水産省補助事業「新・農業人フェア」の責任者を担当。2020年にリクルートを定年退職後、現在は、「新・農業人フェア」のセミナー、地方行政の農業活性化事業に関わる。2024年4月に「難しいことはわかりませんが、50歳でも農業を始められますか？」を淡交社より出版。

■ 持続可能な農業のために「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムを提供

農作業事故の年間発生件数は、JA共済連の推計で約6.4万件に上ると予測されます。農林水産省が発表した令和4年の農作業事故死亡者数は238人※1と減少傾向にはあるものの、就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.1人※2であり、他産業に比べ依然として高い状態です。農作業にはさまざまな危険が潜んでいます。

出典：※1 <https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/sizai/attach/pdf/240222-1.pdf> ※2 <https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/sizai/attach/pdf/240222-2.pdf>

そこでJA共済では、当事者の視点から農作業の事故を疑似体験できるVR映像コンテンツ「農作業事故体験VR」を開発。全国のJAにおける研修会やイベント、農業関連団体による講習会などで、VR動画を活用した学習プログラムを展開し、農作業事故を「自分ごと化」していただき、安全対策の重要性を伝えています。JA共済は、農作業事故を防止して持続可能な農業を目指しています。詳しくは▶ <https://social.ja-kyosai.or.jp/activity/culture/vr/>



学習コンテンツ（2D映像）

農業の安全性について考えていただくため、農作業事故件数やその要因などを映像でご紹介します。



農作業事故体験VRコンテンツ（3D映像）

乗用型トラクターの転倒、耕うん機の後進作業、コンバインの巻き込まれなど、重大事故につながりやすい農業機械の事故をVR映像でご紹介します。

※発育期の目への負担に配慮し、対象年齢を14歳以上としています。

